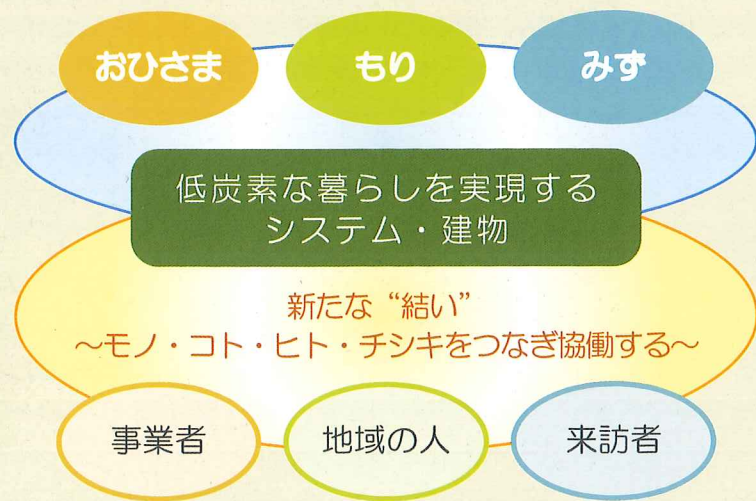


飯田が目指す都市の姿

～新たな“結い”によって生まれる低炭素な暮らしとコミュニティ～



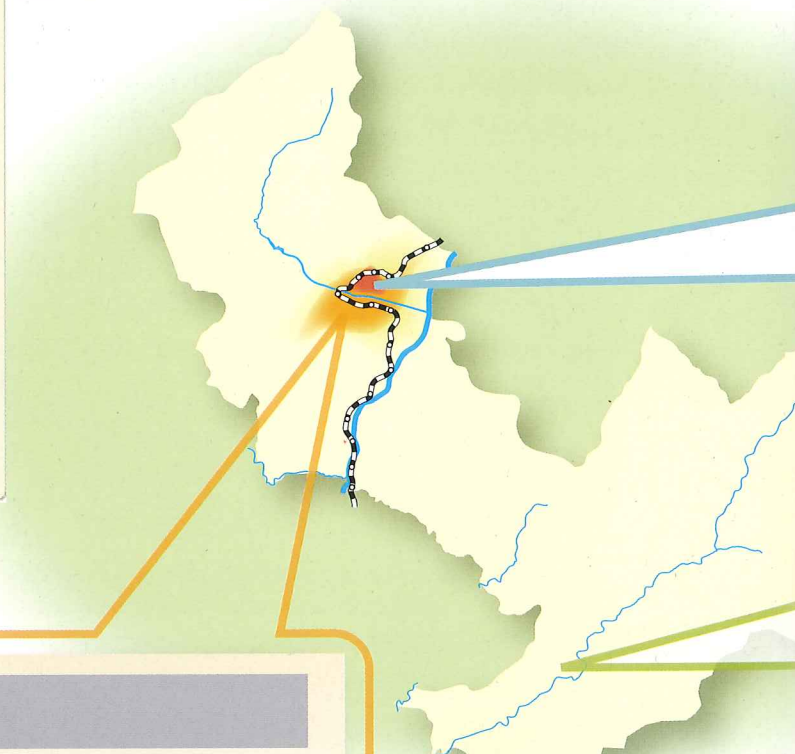
新しい地域社会のイメージを作りました

様々なモノやコト、ヒト、チシキがつながり低炭素なエネルギーの活用や省エネにつながる必要な仕組み（新たな結い）が生まれ、人々がそれらを楽しむことによって、エネルギーの制約や地域コミュニティの活力低下に不安を感じることなく、安心して快適に暮らせる社会となっています。

この“新たな結い”は地域の人々による自治の精神で生まれ、地域の人々の責任と関与によって運営されています。

この新しい地域社会の姿は

- 多くの家庭の屋根には太陽光パネルが設置され、皆で太陽エネルギーを使っています
- 地域の発電所としてメガソーラー発電所がいくつも働いています
- 地域の発電所として急峻な山や谷を活用して多くの小水力発電所が働いています
- 森は常に人の手が入り、地域木材を活用した建物や製品が生まれ、エネルギーとしても活用されています
- 地域木材が使われた建物は省エネ建物となっており、エネルギーを無駄にしない暮らしが営まれています
- コミュニティの中心には、再生可能エネルギーを最大限活用した施設が生まれ、地域活動の拠点として安心な暮らしを支えています
- EVバスなどの低炭素な公共交通が市内の様々な地域を結ぶと共に、太陽光などの再生可能エネルギーを活用する充電スタンドが市内各地に設置されています
- 自転車で地域を巡るために自転車道ネットワークが整備され、通勤・通学やレクリエーションなど、様々なシーンで自転車が活用されています
- 再生可能エネルギーを活用するために様々な産業が生まれ、多くの人々がエコな市場形成に係わっています
- 低炭素な暮らしとコミュニティに触れるために多くの人々が地域外から訪れ、地域の人々と交流し、全国へ飯田モデルを波及しています
- 地域の人々の責任と関与によって、地域の資源を積極的に活用する仕組み（新たな結い）が動いています



こうした整理をもとに、地域特性に応じた“山”“里”“街”の暮らしをイメージしました

地域毎のイメージ

“里”の暮らしとコミュニティのイメージ

里の暮らしとコミュニティ

～新たなエネルギー産業が生まれる創造コミュニティ～

飯田市の大部分を占める“里”は、地域に存在する資源を再生可能エネルギーとして変換していく工場の役割を担うと共に、多くの人々が住む地域として【おひさま】、【もり】、【みず】のエネルギーを総合的に活用した低炭素コミュニティが形成されています。

再生可能エネルギーの工場としての役割を持つ“里”では、“山”から出された森林資源を建築資材等に加工すると共に、木質ペレットなどをエネルギー資源として加工する拠点やメガソーラー発電所などが立地し、飯田市全体をはじめ、南信エリア全体へ再生可能エネルギーを供給しています。

更に、再生可能エネルギーを活用するために必要な様々な産業が活動し、新しい製品、技術開発が行われています。

また“里”では、個々の住宅で太陽光パネルや太陽熱パネル、木質ペレットボイラーが設置され、再生可能エネルギーが個々人のニーズに応じて使われています。

